

## 第12期 社会教育委員の会議（第6回） 会議録

● 開催日時 令和元年12月20（金） 午後2時～4時

● 会場 702 会議室

● 出席者

社会教育委員 （6人）

|       |       |
|-------|-------|
| 大島 英樹 | 野川 春夫 |
| 大畑 廣行 | 竹高 京子 |
| 長峰 政子 | 鈴木 弥生 |

報告者 （1人）

東京都オリンピック・パラリンピック準備局 運営推進担当部長 関口 尚志

事務局職員 （4人）

|                          |        |
|--------------------------|--------|
| 葛飾区教育委員会事務局参事、生涯学習課長     | 加納 清幸  |
| 生涯学習課学び交流事業推進係長          | 伊藤 清美  |
| 生涯学習課学び交流事業推進係主査（社会教育主事） | 与儀 睦美  |
| 生涯学習課学び交流事業推進係           | 宮田 耕一郎 |

オブザーバー （2人）

|             |       |
|-------------|-------|
| 生涯スポーツ課長    | 南部 剛  |
| 生涯スポーツ課事業係長 | 張替 武雄 |

出席者 計13人

### 次第

#### 1 報告事項

(1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会

#### 2 議事

(1) 「東京2020」に向けた東京都の取組

(2) 今後の会議の進行について

(3) その他

### 【配付資料】

○第5回会議会議録（案）

○基本構想・基本計画策定関係資料〔資料1〕

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局提供資料(2020年に向けた東京都の取組、東京2020大会及びラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>成功に向けた区市町村支援事業、体育施設利用ガイド、スポーツ推進企業取組事例集、企業×障害者スポーツ競技団体等による障害者スポーツ振興の取組事例集 Ver. 2、TOKYO style2019、障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル、他)

○第12期社会教育委員の会議スケジュール（案）〔資料2〕

○関連事業チラシ（わがまち楽習会「地域交流と健康づくりセミナー」、「成年後見スキルアップセミナー」、「立石の観光と宿泊」、学校図書館ボランティア講座「ぼくの絵本づくりのひみつ」、やさしい東洋医学講座、かつしか区民大学特別講演会「たたかない・どならない子育て」、司法書士による相続の話）

— 開会 —

○事務局 ただいまから、第6回の社会教育委員の会議を始めます。

本日、公務により熊谷委員と風澤委員が欠席されます。また、生涯学習課長は公務により遅参いたします。

それでは、本日、傍聴者が1名いらっしゃいますので、傍聴者は入場してください。

(傍聴者入場)

○事務局 本日の資料についてです。第5回の会議録の案を机上配付しておりますが、修正点がございましたら、1月7日の火曜日までにご連絡をお願いいたします。

なお、第4回の議事録は確定したものを葛飾区ホームページに掲載しております。

東京都オリンピック・パラリンピック準備局から提供いただいた資料が封筒に一式入っています。それに加えて、前回配付しました「2020に向けた東京都の取組」という冊子が本日のメインの資料です。

資料1は、葛飾区基本構想・基本計画策定委員会の現在の状況について大畑委員からの提供資料です。その中の資料番号が本会議の資料番号と重なっておりますが、その会議の中で配られた資料ですので、加工せず配付しております。

資料2は、今後のスケジュールの案です。

その他として、生涯学習に関連した事業のチラシも配付しております。

それでは、この後の進行は大島議長をお願いいたします。

## 1 報告事項

### (1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会

○大島議長 それでは、皆様、改めまして、こんにちは。風邪やインフルエンザがはやっているのが気をつけていただければと思います。

お手元の次第に沿ってまいりたいと思います。

まず、報告事項ということで、葛飾区基本構想・基本計画策定委員会について、大畑委員からお願いいたします。

○大畑委員 それでは、お配りしてあります資料に目を通していただければと思います。2回目の会議に出席し、今回は分科会という形で行われました。私の所属の分科会は第3分科会といい、主に子どもにかかわること、家庭支援、学校教育、地域教育、生涯学習、スポーツが主な担当です。

葛飾区基本構想・基本計画について、1回目では事務局の報告があっただけで全体での具体的な話し合いはありませんでした。分科会の中でそれぞれ話し合いをしながら、また全体会で検討しよ

うという形で今進めています。今回、1回目の分科会ということで、委員長と副委員長の選出がありまして、元東京学芸大学教職大学院の近藤氏が委員長に、長野県立大学の太田氏が副委員長ということで会議を進めてまいりました。

基本構想の位置付けですが、3枚目、別紙1をご覧ください。基本構想・基本計画、実施計画の体系の図があります。このうちの基本構想の部分を先に皆で検討いたしました。検討といっても事務局の説明にあわせて進み、特に意見を深く掘り下げたという感じはありませんでした。基本構想については、将来像、理念、基本的な方向性ということを検討してくださいということでした。

別紙2は葛飾区の現状ということで、いろいろデータが入っております。社会教育でも使える部分もあると思います。会議では、ここは読んでください、ということで終わってしまいました。

別紙3は、基本計画にかかわる検討の方向性です。区の長期的な将来像について、「区民とつくる水と緑ゆたかな心ふれあう住みよいまち」、これは30年前の構想がそのまま載っています。ですから、本来は検討するべきでしょうが、まだ意見としてはあまり出ていません。「水」は外しても良いのではないかと個人的には言いましたが、これが取り上げられるかどうかわかりません。

理念は、3つの枠になっていますが、この部分の説明も、さっと流されてしまった感じです。基本的な方向性についても説明がありましたが、これも分科会の中では特に検討されたところはなかったということです。

スケジュールを見ると、基本構想・基本計画策定委員会という大きな内容の割には、もう区のほうで今までやっている形態をそのまま当てはめてきているので、広がりがないというか、新しい発想をそこから生み出すのは難しいかなという感じがしています。今こちらに挙げた資料の内容に、大きな変更はございません。

3番目の分野ごとの現状と課題について、それぞれ委員から意見がありました。ただ、現時点でこれをやってどうするのかなという気が若干します。基本構想の部分がしっかり固まらないうちに課題が出てくるのかな、逆に先に課題を上げてしまうことで基本構想が固まってしまうのかな、それも何かおかしい感じがします。次回以降、また変化がありましたらお伝えしたいと思います。

ちなみに、今月の26日が3回目の会議ということになっています。

**○大島議長** ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

自分で質問ですけど、将来像が30年前と同じ文言で出てきたということのおもしろさというか、どういう想定なのか興味がありますね。理念についても「持続的な発展」と書かれていて、後ろのほうを見ると、ここでも取り上げたSDGsへの言及があり、この会議とも重なっていくのかな、それならばせっかく勉強したので大畑委員を通じて注文が生まれれば、発信いただけたら嬉しく思います。

**○大畑委員** 一応勉強させてもらったことで理解できるものは全て発信するつもりでいます。

同じことを繰り返すのだけは何かつまらないので、意見を言っていこうと思っています。

○大島議長 ありがとうございます。

ちょっとした文言でも、実は持続的な発展という言葉を使うということもどっちを生かすのかなんてところもあろうと思いますし、細かな視点でも私たちが気づいたところがあれば意見をさせていただければと思います。

ほかの委員さん、いかがでしょう。

○野川副議長 この第1、第2、第3分科会というのは、それぞれどういう領域になるのでしょうか。

○大畑委員 第1分科会が、健康・医療、高齢者支援、障害者支援、地域福祉、人権、平和、ユニバーサルデザイン。

第2分科会が、まちづくり、防災・安全、交通・公園、水辺・環境、産業・観光、地域活動、文化・国際。

第3分科会が、子ども・家庭支援、学校教育、地域教育、生涯学習、スポーツ。

第4分科会もあります。ただ、第4分科会は現在立ち上がっていません。上記各検討分野における情報通信技術の活用という項目の中で必要に応じて第4分科会が開催されることになっています。

○野川副議長 ありがとうございます。

○大島議長 先ほど大畑委員から、進め方ということもご説明がありましたが、そのことはこの委員会でもしっかりと先の見通しを立てて進めていきたいなと思います。

もしご意見なければ以上ということよろしいでしょうか。

大畑委員、ありがとうございました。

## 2 議事

### (1)「東京 2020」に向けた東京都の取組

○大島議長 続きまして、次第の2の議事に入りたいと思います。

「(1)『東京 2020』に向けた東京都の取組」です。東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長でいらっしゃる関口さんにご報告をよろしく申し上げます。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 東京都オリンピック・パラリンピック準備局の運営推進担当部長を務めております関口と申します。このたびこのような「2020年」に向けた東京都の取組のご説明をさせていただける機会をいただき、本当にありがとうございます。

基本的にはこちらの冊子ベースでご説明いたしますが、実際の具体的な取り組みについて資料を雑多にご用意させていただきました。それを参照しながら進めさせていただきたいと思っています。

まずは、自己紹介ということで、運営推進担当は何をやるのだろうと皆さんお思いかと思えます。今お話がありましたように持続可能な取り組み、東京 2020 大会のコンセプトとして多様性と調和などありますが、SDGsにも貢献していく計画がございまして、その東京都側の窓口というような形をとらせていただきます。また、都内に24会場がございまして、その会場と最寄り駅の間のお客の安全であるとか輸送の関係であるなどを開催都市である東京都が担い、その体制の取りまとめを仰せつかっております。12月1日からこの職になりました、それまで4月から11月まではラグビーワールドカップの担当をさせていただいて、同様にその会場に行かれるお客の皆様の安全・安心を確保するということの担当をさせていただいております。

若干略歴を申し上げますと、実は課長の時代にもスポーツ行政に携わっておりまして、その中で野川副議長にいろいろとご指導いただきました。東京マラソンの都側の担当や、スポーツ基本法が制定され各都道府県でも計画を立てていますが、その計画の担当、ほかにもいろいろなイベント等を担当させていただきました。直近の2年間ではオリンピック・パラリンピック準備局の総務課長ということで議会の窓口をさせていただきました。

この「2020年に向けた東京都の取組」の中では、うちの局だけではなくて教育や環境、福祉・保健など、さまざまな局の取り組みが書かれており、若干重なる点があるかもしれませんが、その点ご容赦いただければと思います。

まず、こちらの資料に入る前に、1964年東京大会のレガシーと、64年大会と今の状況を比較した表を用意させていただいておりますのでご覧いただければと思います。

64年大会につきましては、多くの皆様のご記憶にあるかと思いますが、あの大会を経て首都高が整備されたり新幹線が整備されたり、ハード面のレガシーが今でも使われ、残っていると思います。

「1兆円プロジェクト」ということで、その当時の国家予算が3兆円だったそうですが、そのうちの3分の1を使った。さらにそのうちの9割以上が新幹線や高速道路の整備に充当されたという話もございまして。

また、技術面でいうと、64年大会のときにセイコーの計測器機などが採用されて、いわゆる技術大国と世界的に知らしめられたのもこの大会からということも聞いております。

あとは、既に普及されているトイレのマークや車椅子のマークなどのピクトグラムもこの大会からできたということで、いわゆるスポーツの大会ではなくて、社会を変えていくオリ・パラ大会なのだと思っています。

この資料に書かれていることをご紹介させていただきます。64年の大会でスポーツ振興の土台がつくられたと私は認識しておりまして、実際に大会が決まったのは1959年と、5年前だったそうですが、その翌年には全国の体育指導員の協議会が結成されたり、スポーツ振興法、今のスポーツ基本法の前身ですが、それが公布されたりして、体育施設の整備や、国がかかわっていく仕組みがつくられました。また、今も各地域で活動されているスポーツ少年団もその準備の中で進められ、さ

まざまな競技会場ができたということです。東京との関連で申し上げますと駒沢オリンピック公園も、この64年大会の会場として整備されたということです。実は、千駄ヶ谷の東京体育館は、その前にアジア大会で整備されたという話を聞いております。

そして、それまでは学校の部活動や、体協などによる公のスポーツの取り組みが非常に多かったのですが、いわゆるスポーツクラブといわれるセントラルスポーツクラブなどの民間のスポーツクラブも、こちらの大会を経て、オリンピックたちが後進を指導するため広まっていった。また、ママさんバレーなどもこういう大会から広がっていった。まさに今につながるスポーツのレガシーが、この大会の中で培われていったと思っております。

また、もう一つ大きな転機として、障害者スポーツの振興の過程になったところではないかと思っております。64年大会のもう次の年には日本障がい者スポーツ協会が設立され、同じ年に全国大会が開催されたということで、今も脈々と、元々は身体障害者でしたが、知的障害者を含めた形での大会として位置づけられております。

次の資料です。今の社会状況のお話で、少し古いデータですが、人口動態で申し上げますと1964年当時まだ1億人でなかったところが今ではもう1億3,000万近いといわれています。出生率も今は2人を切って行って1.43人。今では1.3人ぐらいといわれています。やはり大きな違いというのは65歳以上の人口の割合で、64年大会では6.2%と10%未満でしたが、今25.1%、全国的に見て4人に1人が65歳以上で、まさに高齢化が進展しているということでございます。ちなみに、東京都はまだ実は全国的に見ると若干若く、2015年の統計で、高齢者人口が22.7%。まだ4人に1人には達していないというような状況です。また、平均寿命もかなり上がってきているという状態です。

あと、経済指標ですが、当時のGDPが29.5兆円。物価が違いますが、今は480.2兆円、あと観光客も27万人から、今では、これ2013年当時で1,126万人となっていますけれども、最近の2018年の統計では3,119万人ということで、まさに右肩上がりというような状況でございます。

人口対応でいうとかなり本当に若い世代が多かった1964年からまさに逆のつぼ型になっているというような状況の中で、2020年大会で何を残すのかというのが私たち東京都としての大きな課題だと思っております。

今日、ちょうど大会予算が発表されていると思っております。大会の経費が全体で1兆3,500億円と、若干減るようなことも聞いておりますが、そのうちの6,000億を東京都が負担するという形でございます。都民の皆様の税金をきちんと生かした形で何かを残していかなければいけないと思っております。1964年大会では、スポーツの土台がつくられたり、社会資本ができたなどがありますが、今回は特に高度高齢社会が進む中で、ソフトレガシーを残していくのだろうと考えております。

小池都知事が先日ある講演会の中でお話をされた中では、64年大会は新幹線などができたけれど、今回は見えないレガシーをつくるのだろうと、例えば働き方改革、あともう一つが先ほど情報のお

話もありましたが、5Gの普及を東京都としても積極的にやっていきたいというようなお話がありました。実はそれは小池都知事になってからのお話で、この中にまだ含まれていない状況ですが、そのようなことも今、東京都のほうでは進めさせていただいています。

実はこの「2020年に向けた東京都の取組」を出させていただいたのが平成27年、大会が決まったのが平成25年ですので2年後に取り組みに着手しました。今回、少しずつ形が見えてきたかなというものも含めてご紹介させていただきながら話を進めさせていただきたいと思います。この冊子は実は平成30年の8月に、その時世に合わせた形で若干修正をし、27年当時から補強させていただいたものです。

1ページめくっていただきますと、この東京都の取組の趣旨であるとか、今、私が述べさせていただいたようなことが記載してございます。

特に、2ページに「2回目のパラリンピック」と記載しておりますが、東京は世界で初めて2回目の夏季パラリンピックを開催する都市です。このパラリンピックを通じていわゆる障害者スポーツだけではなくていわゆるダイバーシティ、インクルーシブな社会をつかっていきたいということで、さまざまな取り組みを進めております。特にバリアフリーの取り組みについてはかなり小池都知事も力を入れていまして、後ほどご紹介させていただきますが、宿泊施設に車椅子利用者が泊まれるような部屋がくれるよう支援するといった取り組みもしております。

「2020年に向けた東京都の取組」の大きな取組には8つのテーマを設け、次のページで整理しております。まず競技施設、オリ・パラの開催に向け東京湾にボート場をつくったり、会場をつくったりしておりますが、これをきちんとレガシーとして残していくことも考えています。また、この8つのテーマに沿ってさらに、これが絵に描いた餅にならないように、東京都の実行計画の中にもそれぞれの整合性を合わせた形での施策の展開を図っています。

ここから8つのテーマ、それぞれご説明をさせていただきたいと思います。

5から6ページ、スポーツ競技会場、整備をしてどうするのだと。リオ大会では競技会場の利用が進まず、実は事前にその競技会場をつくったはいいいけれども、その後どうやって使うかの計画がなかったそうです。それで、なかなか利用が進まなくて維持費がかかってしまって、終わった後は草が伸び放題になってしまったそうです。東京都の場合そのようなことにならないようにということも含め、まず平成29年の4月にこの各会場の運営計画、後利用の計画を立てさせていただきました。その翌年の夏にはどのように管理をしてもらうかというものも決定をさせていただきまして、その指定管理者とともにいろいろな大会の誘致や、どのように都民の方々に利用してもらおうか、そういうものを今検討していきながら準備している状況でございます。

この中で5ページの左下の有明アリーナという施設を紹介しています。こちらにつきましてはコンサート会場にかなり使えるということで、こちらについては都費を使わなくても運営できるのではないかとということで、コンセッション方式という、運営権というか、有明アリーナを使って自由

に運営していいよという権利を民間の事業者に与えまして、何十年分どうぞ民間の力で使ってください、というような取組、新しい管理方式を採用させていただいているところでございます。

7ページ、8ページでございます。晴海に選手村を整備しておりますが、民間のデベロッパーに建ててもらって、東京都と組織委員会で借りて選手村に使い、内装の工事だけやって、その内装を直して大会が終わった後に新築として売ってもらう形になっています。そういう意味で、つくったものを無駄にしない形で準備を進めさせていただいております。大きいタワーがイメージ図の中央にあります、これは大会が終わった後に建てる予定だと聞いています。そういう意味では晴海の街が新しい都市として、このオリ・パラを契機につくられていく、整備されていくというのも一つのレガシーになるだろうと思います。そのレガシーの中でさまざまな、例えば水素エネルギーを使った資源調達などもこの中で進めていくというように、新しいタイプのまちづくりを進めていくということです。

9ページ、10ページです。都議会で、競技会場や選手村への交通インフラをどうしようかと協議しております。なかなか新しい駅はつくれないものですからBRTという、1台で50人程度乗車するバスを連結型にして輸送量を増やしていく取組も進めております。また、ベイエリアの回遊性もでございますので、自転車、レンタサイクルなども、臨海部ではNTTドコモさんなどが協力して各駅に自転車ステーションを置いて、元に戻さなくても近くの自転車置き場に置けばいいよという取組もさせていただいております。また、舩添元都知事、小池知事も、東京は水辺がでございますので船を使った輸送体制というものをつくるべきではないかというようなお話もされておりました。海の森競技場がまさに海の中にあるので、バスだけだと50人ぐらいしか乗れないため、船を使った輸送も検討している状況です。

11ページ、12ページでございます。大会に向けたバリアフリー化ということで、先ほども申し上げましたが、このバリアフリー化にかなり力を入れております。実は今、東京がつくっているオリ・パラの競技会場についてはアクセシビリティ、いわゆるバリアフリーをきちんとしなさいと特にIPC、パラリンピック委員会からも言われておまして、アクセシビリティガイドラインを策定いたしました。そのアクセシビリティガイドラインに沿った形でまず競技会場をつくって、例えば最寄り駅から競技会場までの間もきちんとアクセシブルルートを確保し、車椅子を利用した観客の皆様も安心して会場にたどりつけるようにしましょうという形になってございます。それを2020年までに間に合わないかもしれないとも、さらにこの考え方をまちづくりの中に広げていこうと、福祉保健局と都市整備局で、今般、福祉のまちづくり推進計画というものを立て、ユニバーサルデザインの普及を進めていくという準備段階に入っております。また、12ページに無電柱化や危機管理体制の構築がございまして。昨日、有明の会場競技場で、大きな地震が起こった場合の、いわゆる災害対応訓練をさせていただきました。そこでは地元の消防団の皆様から消防庁、警視庁、自衛隊にもご協力いただきながら、まさに一体的な体制を組んで連絡調整のやり方なども事前に訓練させて

いただきました。訓練自体は1会場でしたが、実際に都内には24会場ございますので、報道で映されていたのはその場のトリアージ、救急搬送の写真です。その裏で、実はこういった災害対策本部との連絡や各会場で行われた図上訓練みたいなものもやっていたというような状況です。

13 ページから 16 ページでございます。以前の私にとってはとても大きな課題であった、大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現する目標でございます。オリ・パラだけではなくて、これを契機にスポーツが都民の皆様にとっていいものだというのを知っていただきたいということで、こういう目標を立てさせていただきました。まず一つが「コラボレーションのスポーツを推進します」と書いてございます。これは何を意味するかというと、1964 年大会で、スポーツの環境が整ってはきましたが、例えば体育協会があったり、行政があったり、学校体育があったり。それぞれの主体がばらばらにやっていた。それをいろいろな方々を巻き込みながらスポーツを進めていきたいな、という思いがあってポンチ絵をつくりました。この中の事例の紹介として、例えば東京都スポーツ推進企業の取組研修というのをご用意させていただきました。例えば社員の方々にスポーツの楽しさを知っていただきたい、そういうことをすることによってスポーツが日常生活に溶け込んでいくのではないかという思いも含めて、僭越ですが東京都がスポーツ及びスポーツに取り組んでいる企業の活動を表彰します、という制度をつくりました。スポーツ推進企業取組事例集の最初の何ページかで大きく取り上げているのが、中でもモデル的に広めていきたいという取組で、スポーツ推進モデル企業というものでございます。こちらについては、都知事から直接賞状を授与させていただいたりしております。例えば事例集の 28 ページ以降、平成 30 年度東京都スポーツ推進企業一覧、こちらは百何十企業ありますが、こういうような形で認定証を付与しております。既に募集は終わっていますが、こういうチラシや、この 11 月に今年度のスポーツ推進企業の認定数を発表しました。今回、374 社認定させていただきました。

「2020 年に向けた東京都の取組」の 13 ページに戻りますが、スポーツ実施率 70%の実現という目標を掲げさせていただいております。こちら実施率とは、週 1 回以上スポーツをする方の割合ということで、2018 年現在で 57.2%、一時期 60%まで行きましたが、なかなか 70%は難しい状況にあります。やはりスポーツというと、いわゆる勝敗を決めるというようなものを思い浮かべるかもしれませんが、本当にちょっと体を動かすだけでも東京都はスポーツだと認識しております。そして、それはとても健康にもいいことだということをみんなに知っていただくために、「TOKYO style 2019」という冊子をつくらせていただいております。概要版もあり、1 日 1 万 2,000 歩を歩くだけでかなり健康になりますよ、みたいなことも触れさせていただいておりますので、ぜひ後ほどお読みいただければと思います。

また戻っていただいて、「2020 年に向けた東京都の取組」の 14 ページに東京全体に「スポーツフィールド」を創設します、とございます。スポーツというと体育館や陸上競技場、サッカー場などがないとできないと思われがちです。しかし、最近ジョギングやウォーキング、本当に体を動か

すだけのスポーツが普及していつているということもあり、気軽に使えるスポーツ施設があるということを知っていただきながら、そういうところでもできる種目も普及していきたいなど。また、特に臨海部でカヌーやボート競技場、いろんなスポーツの競技場が今回東京の中でもできるので、そういうところもぜひ使っていただきたいな、普及していきたいと思います。また、今ご覧いただきましたこの「TOKYO style 2019」の中でも触れておりますが、職場の中でもできる運動なども紹介し、本当に日常にスポーツが溶け込んでいるというようなことができたかなと思っています。

「東京スポーツ施設サポーターズ事業」というチラシがございます。民間企業の保健施設のような、社員の福利厚生のための施設を都民に開放してくださいというお願いをしているところです。例えば、大学などでは学生さんの活動が多いので難しい部分もありますが、それを少しずつ増やせるよう取り組んでいます。実は、始めたのが2年前ぐらいですが、当初は、2020年大会の時に都立のスポーツ施設は競技会場になってしまうので、都民のスポーツをする場を確保するという意味合いもあって、皆さんの力をお借りしてやっていきたいなど、野川副議長にもご相談させていただきながら、大学の先生をご紹介していただいて進めている事業でございます。これは2020大会に向けたものではありませんが、この事業自体が2020以降もつながっていくものなので、そういう意味ではレガシーになっていくのではないかなと思っています。

続きまして、「2020年に向けた東京都の取組」の15ページ、16ページでございます。「障害者がスポーツに親しむための環境整備をしていきます」ということで、平成25年度にオリ・パラ大会が決まり、東京都としても障害者スポーツ、パラリンピックに向けて進めなければいけないということで、いろいろなイベントや事業を進めております。イベントは一過性のものですが、障害のある方がスポーツを楽しめる環境を広げたいという思いで、例えば、「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」というものを作成しました。障害のある方々が、なかなか区立の体育館などを使用できないということをおっしゃっていました。しかし、ちょっとした工夫で使えますよと、例えば、点字ブロックを整備するにはお金がかかりますが、ひもを1本敷いてガムテープをその上に張るだけでも真っすぐ進む線ができますよとか、スロープについてもコンクリで整備しなくても板を張るだけでも大丈夫ですよ、というような事例を紹介させていただいております。これは、各区市町村や各スポーツ施設の指定管理者に配付しているところでございます。限られた予算の中で、どこまでできるか、何ができるのか、障害者スポーツ団体の方々と施設管理者の方々が話すきっかけになればいいなと思い、こういう冊子をつくりました。よく、車椅子のバスケットやラグビーなどは体育館の床に傷がつくと言われます。全くないとは言えませんが、実際に東京都の体育館等で貸している事例はあります。養生をした上でやってもらう場合もありますが、それほど傷がつくものではないよ、ということも書いてありますので、後ほどご参照いただければと思います。

障害のある方がスポーツをする環境は、もしかしたら特別支援学校なのではないかなと思い、特別支援学校の体育館やグラウンドを積極的に開放してよとお願いしております。元々東京都もそう

ですが、都立の学校については教育委員会が管理して、よく土日に学校開放をやっておりますが、その学校開放をやるに当たってはかなり先生方の負担が大きいので、事務局である私どもで対応します、という提案をさせていただきました。実際にやっているのは、スポーツ文化事業団という東京都の外郭団体ですが、団体の力を借りながら、既存の利用者の方々に影響がないようにということで、少しずつ利用時間帯も増やしていきながら進めております。もう一つが、せっかく特別支援学校に体育館がありますので、そこを使って体験事業、体験教室もあわせて実施しております。だんだんと参加者が増えてきて、パラリンピックの競技ではないですが、電動車椅子でやるバスケットや障害のある方とない方と一緒に参加できるバスケットなどを紹介させていただいております。

「2020年に向けた東京都の取組」に戻りまして、スポーツとは違いますが、受動喫煙防止対策の推進ということで、こちらも小池都知事が着任されてから大きく動いたところをごさいます、法律も既に制定されて施行されておりますが、東京都は一步進んでやらせていただくということで、2019年の1月に一部を施行し、来年の4月には全面施行という形で進めております。具体的には国の制度もそうですが、行政機関やたくさんの方がいらっしゃる場所は原則禁煙、敷地内禁煙。東京都の場合、お店、飲食のお店の従業員の数によって受動喫煙防止策をきちんと整備するという形で進めさせていただいております。2020年大会が完全禁煙を目指すというような状況もありましたので、開催都市でも進めていきます、という意思表示であるかと思えます。

17ページでございます。「都民とともに大会を創り上げ、かけがえのない感動と記憶を残します」ということで、2020大会をみんなで盛り上げて、みんなが良かったね、と振り返ってもらえたらいいというような事業を紹介しております。例えば先般決まりました聖火リレーのコースですね。葛飾区さんは区役所前から始まって奥戸総合スポーツセンターですか。7月2日となったと思いますが、その日、かなり盛り上がるのではないかと思います。また、東京2020参画プログラムという、これは組織委員会の認証制度ですが、各地域の方々が2020大会を契機にいろんな文化事業、盆踊りでもいいのですが、そういうようなもので2020を思い返していただくというような事業も進めております。既に昨日までに、事業の件数ではなくて参加人数ですが9,700万人の方々が参加されておりました。17ページの写真、これ小笠原の写真ですが、フラッグツアーという、葛飾区さんも一昨年度3月にあったと聞いております。そのときTOKIOの松岡さんが来て盛り上がったと聞いておりますが、そうした大会を盛り上げていこうという取組も進めております。

18ページです。身近な地域と連携した取組を推進ということで、東京都と区市町村が連携したオール東京体制ということで、事前キャンプ誘致に関する情報提供・相談体制などを充実していきます。葛飾区さんはブラインドサッカーの事前キャンプの受け入れを決定されたということで、練習風景を見られるかどうかというのもあるとは思いますが、私、ラグビーのときにもキャンプの受け入れを担当いたしました。練習は見られなくても交流の機会は団体・協会もやっていきたいと思っています。それによって団体側としても区民の応援を得られると、場合によっては2020

大会以降も何かの代表のキャンプ地としてずっとつながっていけば、ずっとその協議団体と区との友好関係がつながって、区民の方々にも大きなレガシーになるのではないかと思います。また、スポーツセンターのブランディングとしても、オリ・パラ大会の代表が使ったスポーツ施設だということで区民の利用の促進にもつながるのではと思います。

区市町村と東京都との取組ということで、「東京 2020 大会及びラグビーワールドカップ 2019<sup>™</sup>の成功に向けた区市町村支援事業」という、東京都からの目線の資料で大変恐縮でございますが、2020 大会に向けて区市町村の取り組みを支援していく仕組みをつくらせていただいております。もう来年が 2020 大会なので使いようがないという部分もあるかもしれませんが、葛飾区さんもキャプテン翼CUPをやっているという部分もあるかと聞いておりますし、障害者スポーツの地域振興事業としてトランポリンや水泳教室など、さまざまな障害者スポーツに取り組んでいただいていると伺っております。また、ハードの整備ですが、スポーツクライミングも整備をいただいております。こちらも東京都も本当に若干の額ですが出させていただいております。そうして 2020 大会を契機に区市町村、都内の全体のそのスポーツの環境が整うといいと思っています。このスポーツ施設整備はバリアフリー、新しくつくった競技会場、東京都の競技会場はアクセシビリティガイドラインに沿った形でつくっておりますが、障害のある方々がスポーツをしようと思っただけで外に出るためにはその環境が整っていないといけないと思いますので、こういう都の補助制度を使っただけでなく、スポーツ施設のバリアフリー化を進めていただければと思っております。

続きまして 19 ページです。前回の会議でもボランティアのお話があったとお伺いしております。この大会のボランティアは、大きな位置を占めておりまして、先般ラグビーワールドカップでは都内では 2,400 人ぐらいのボランティアの方々にご協力いただきました。私も直接目に触れて、本当にボランティアの皆様が生き生きとしていらっしやっていました。ラグビーの場合、かなり海外からのお客様が会場にいらっしやいました。東京では、有楽町と調布駅前パブリックビューイングを実施しましたが、そこにも多くのお客様がいらっしやいました。そこにもボランティアさんにご協力いただきましたが、一緒に写真を撮ったり、試合が終わって帰りにハイタッチをしたりするのですね。特に海外のお客様はすごくそれを喜んで、皆さん普通歩きながらやるのですが、自分が主役みたいに、他の方との間隔をあけて行くぞと一人で走ってみんなにハイタッチをしてもらうという形で、本当にボランティアさん、とても喜んでいただきました。よくやりがい搾取ではないかと募集のときは相当言われましたが、やりがい搾取というよりも、やる気がある方に活動いただくというのがボランティアだと思いますので、そういうやる気を、モチベーションをいかに生かしながら、ボランティアの配置であったり育成であったり、2020 年以降にまたボランティアをやりたいなと思っていただけるような育成をしていくことが私どもの役割だと思っております。ちなみに、もうご存知かもしれませんが、2020 年大会のボランティアは 2 種類ございまして、一つが会場の中で活動するボランティア、フィールドキャストというところであります。もう一つが会場外、観光地である

とか最寄り駅などで東京の紹介、アピールをしてもらう、それをシティキャストとっております。フィールドキャストについては8万人、シティキャスト、都市のボランティアとありますが、3万人の方に活動していただくという形になっております。フィールドキャストについては20万人ぐらい応募をいただいて、この9月に一応8万人にマッチングを、面接をして決めたと伺っております。10月から育成、研修を始めて、8万人いますので簡単にできるものではないですが、eラーニングもしながら配置を決めていくという段取りです。あとは、このボランティア文化をどうやって将来につなげていくか、せつかく募集、配置の仕組、そういうものもシステムを作ったので、東京都庁の中にボランティアの担当もありますので、そこに引き継いで進めていくと。例えば観光ボランティア、災害ボランティア、通訳ボランティアなどいろいろなボランティアがございまして、つなげていきたいと思っております。

続いて、21ページ、文化でございます。東京都で令和2年4月から半年間かけて実施する文化プログラム「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打って、文化イベント実施の準備をしております。また、「Road to Tokyo Tokyo FESTIVAL」として令和2年4月まで国内外への発信と拡散力の強化を図っております。

23ページ、24ページでございます。こちらは、文化面での環境整備、世界に発信をしていく取組を進めさせていただいております。

25ページ、26ページに入り、5番目のテーマでございます。オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と多様性を尊重する共生社会づくりを進めるということで、社会教育委員の皆様にも学校の校長先生もいらっしゃるとお伺いしておりますが、モデル校の選定や、いろいろなテーマでやっているものをほかの学校に広げていく取組を進めさせていただいております。

27ページ、28ページでございます。最初に「オリンピック憲章の精神の実現に向けた取組を推進します」とありますが、東京都は、オリンピック憲章に掲げられている人権尊重の理念の実現のための条例を昨年の10月に制定いたしました。普通のいわゆる人権尊重と何が違うのだという向きもおられると思います。今般動きがあるのはLGBTで、性の認知、男性の体をしていて女性の認識を持つ、レズビアン、ゲイなどの方々に対して、それを理由に差別をしないようにしようということをお本条例の中にうたっています。また、ヘイトスピーチ、他者を傷つけるような行動についても厳しく制限をしていきたいと思います、そういう取組も条文の中でうたっていて、ポイントとしては、そのための計画を庁内でとつくっていくことが大きな到達点だと思っております。ほかに、都内に在住されている外国人の環境についてサポートもしっかりやっていく。28ページでございますが、障害のある人もない人もお互い尊重して支え合う共生社会を実現していくということで、先ほどご紹介させていただいた宿泊施設のバリアフリーへの支援、福祉のまちづくり推進計画、こちらも今年の3月に策定させていただいております。そうした取組を進めて、スポーツだけではなくて大きな広がりのあるレガシーを残していきたいなと思っております。

続きまして、29 ページ、30 ページ、環境の問題でございます。持続可能な大会を通じて豊かな都市環境ということで、省エネルギーや再生エネルギー、水素エネルギーの普及等を書いてございます。東京都は2050年に、長いスパンですが、CO<sub>2</sub>の排出量をゼロにしていきたいと、そのための取り組みをどうしていくか検討しており、「ゼロエミッション東京戦略」というものを年内に公表する予定でございます。2050年に向けたロードマップをまず定めて、同時並行で、2050年に向けた長期ビジョンを同じような形で策定しておりまして、それと連動させていながら施策を展開していくことを進めております。もう一つ、ゼロエミッションのため、施策としてプラスチックの削減、まさに廃プラの海洋問題などが話題ですが、その具体的な施策を明らかにしていくというもので、「ゼロエミッション東京戦略」と同時に発表するというような状況です。恐らく来週ぐらいには出てくるのではないかと考えています。

30 ページ、31 ページでございます。暑さ対策のほか、多くの皆様にご協力いただいた選手に渡すメダルをつくるのに皆様の携帯電話などの電子機器を回収させていただきましたが、そのような参加型の取り組みなんかも進めていこうと。暑さ対策につきましては、この夏にテストイベントという事前準備の大会で検証をさせていただきました。日陰と風が重要で、ミストもやってみましたが、ミストは暑過ぎると逆効果な場合もあったようです。そういう意味でまず日陰と送風、あとネッククーラーといって水をつけて絞って巻くものがありますが、それも結構有効でした。専門家の話だと飲み物が大事だよという話もありましたので、その施策を重点的にやるために、議会の第4定例会で37億円の補正予算を組んで、今から準備しましょうと早速反映をさせていただいて、私もその業者選定の委員として、提案を聞きながら進めているところでございます。また、メダルについては、無事に全量足るだけの金・銀・銅が集まり、着々とメダルをつくっている状況でございます。

33 ページ、34 ページでございます。冒頭にご紹介をさせていただきました経済指標も当時と全く状況が変わっており、小池都知事も、稼ぐ東京、稼げる東京というものを一つ大きな目玉として何とかせいよというようなことのお話もございまして、東京都内に海外の企業を誘致していきましょうという取り組みも進めています。2020年大会で東京の魅力をどんどん発信して、関心を持ってもらって、関心はあるけれども東京都内で企業活動をするには不安があるなというような方々に対して相談窓口、法的な関係についてもワンストップで解決できますよというような取組も進めております。また、観光都市も目指しておりますが、日本全部で3,119万人の訪日外国人がいると先ほどご紹介させていただきましたが、昨年、東京では1,424万人、約半分近くに東京都に来ていただいている状況です。葛飾区には柴又もございまして、銅像になっているキャプテン翼なども、海外の方に認知されているのではないかなと思います。そういう観光資源を駆使しながら、都内に、そして各区市町村に呼び込んでいく。2020のマスコット、ミライトワとソメイティというのがございますけれども、その像を各都市に置かせていただくと、葛飾区さんにあつたかどうかというのは、記憶になくて申しわけございません。逆に例えばキャプテン翼のキャラクターの銅像は、四ツ木駅

に置かれていたと思います。そのようにみんなでめぐって写真を撮ってSNSで発信してもらうということは、とても有効ではないかなと思います。というのも、ラグビーでの経験ですが、ラグビーもレンジーというマスコットがございまして、海外のお客さんがレンジーをバックに写真を撮っていました。会場でもそうですし、ファンゾーンのパブリックビューイングでもそうでした。それが〇〇にあるよというところを回ってくれる、そこに観光案内があつて、ここにもいいものがありますよみたいなことをやっていくと観光振興にもつながっていくと思っております。

続いて、35 ページ、36 ページです。経済とは別の視点ですが、35 ページの下に「東京をはじめとする国内産食材の魅力の発信」とございます。こちらも2020大会を契機に、産業労働局という部署で、食材の安全性を示す認証制度、Good Agricultural Practices、略してGAPというものがあるのですが、グローバルなものだと手続きが面倒で都内の生産者の方には取り組みづらいということもあり、東京版のGAPというのをつくり、安全・安心な農産物を普及していきましょうという取り組みも去年の4月から開始しております。また、次の36ページの下に「時差Biz」とございます。働き方改革の推進、これも肝入りでやっていますが、「スムーズビズ」と銘打って、「時差Biz」は通勤時間ずらすことですが、それにテレワークを加え、中小企業向けの体験セミナーを実施するなどの取組を進めてまいります。もう一つが、都内の全体の交通量のマネジメントでTDMとありますが、各企業に大会期間中の物流の抑制をお願いしております。最近ではインターネットの取引が進んでいますのでなかなか難しい部分もあると聞いておりますが、この三つの取り組みを合わせて「スムーズビズ」として普及に努めております。特にテレワークについては、2012年ロンドン大会のときはかなり働きかけて、かなり定着をしたと聞いております。これはまさにレガシーという部分ではないかなと思います。例えば男性の方がなかなか育休をとりづらいというような状況、女性もとりづらいというような状況もあると思いますが、時間をずらしたり家庭の中でも仕事ができるような環境を整えたりすることで、多様な働き方ができるというような環境を将来に残していきたいと思っております。一方で、これは本当に表裏一体、いつでも仕事になってしまうのではないかなという懸念もあり難しい部分があります。そこはもう雇用主、管理職、私どもも気をつけなければいけません。都庁も自分の職場にある端末のメールやスケジュールを外で確認できるようになっています。すると休みでも確認をする日課がついてしまつて本当に大丈夫かなと思います。職員にはそうしないようにしたいと思っておりますが、そのような取り組みも進めていきたいと思っております。

最後の8つ目のテーマということで、2020年大会は復興五輪ということで、2011年に起きた東日本大震災からの復興ちょうど10年を世界に発信してみんなに感謝を伝えていくというようなことが一つの大きな目標でございます。それに向けた取り組みをして、さらにそれを2020年以降もきちんと引き継いでいくというような取組も進めております。東京都の場合、スポーツによる被災地支援事業や、スポーツを通じて被災地が元気になっていくような映像を発信するなどの取組を通じて、東京だけではなくて被災地を含めて日本全国がこの2020大会を踏まえて元気になっていけ

たらしいなと思っております。

本当にザクっと、しかも資料が多くてあっちに行ったりこっちに行ったりといった形の説明になってしまい、申しわけございません。私からの説明は以上でございます。

**○大島議長** ありがとうございます。

非常にたくさんのお取組をご紹介いただいたのですが、委員の皆様からご質問やもう少しご説明いただきたいような部分がありましたら、いかがでしょうか。

簡単なところからよろしいですか。3番でご紹介いただいた「フラッグツアー」というのはどんなものなのでしょう。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** オリンピックのいわゆる五輪の旗と、パラリンピックのスリー・アギトスという三つの炎を象徴する旗があります。それを開催都市で持ち回ります。例えば東京はリオから引き継ぎました。それを日本全国みんなで見てね、盛り上げましょうというイベントを、都内であればもう本当に全区市町村を回ってやらせていただきました。そのときにはオリンピック、パラリンピアン、区長さんなどの方々が一緒になって、区民の方々も呼んで盛り上げようというイベントをさせていただくというものです。それが、もう2017年度中に全国を回って、既に全区市町村終了しました。

**○野川副議長** 2年ですよ。最後は東京駅で終わった。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** はい。

**○野川副議長** そのときにTOKIOさんを使っていたのですか。本来ならば、山口達也君が横に並んでいるはずですね。

**○大島議長** 知らなかったことだらけです。いかがですか。

**○鈴木委員** 京都や鎌倉では海外の方が多過ぎて、地元の方がバスに乗れなくて会社に間に合わないということが報道されています。浅草なども海外の方が多いと思います。東京もそういう状態になってしまうのかなという不安がありますが、いかがでしょうか。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** はい。まさにそこが「スムーズ Biz」、「時差 Biz」という形で企業にご協力いただきながら、競技会場や観光地については多くのお客様が行くことになると思います。競技会場に近い企業の皆様は危機感を持っていらっしゃるって、時間帯をずらすか、夏休みをとらせようかと対策を練っている企業さんも結構いると聞いています。オリンピックの期間は、夏休み期間中なので子どもにはあまり影響がないと思いますが、企業はやっている部分もありますので、早くから各企業にお願いをしているところでございます。

ラグビーの経験で申し上げれば、海外からのお客様の行動というのは予想を超えていました。元々ラグビーの場合、ビールをたくさん飲むと噂では聞いておりました。会場内なのかと思ったら、路上ですべて飲んで、青空パブ状態でした。さらにその会場に入る直前に、広場というかペデストリ

アンデッキがあって、そこでもわいわい騒いで飲んで、旗を振り歌を歌い。実際楽しんでいるだけなので、確かにうるさくはありますが、けんかなどは全くなく本当にお祭りなのだと思います。オリ・パラの場合は、それほど話ではないのかもしれませんが、ラグビーの時には、地元の方々にご迷惑がかからないように、生活道路に入らないように、事前に柵を立ててシャットアウトしました。

ただ、ラグビーなぜあれほど盛り上がったのか、日本代表の活躍というのも当然あるのかもしれませんが。私にもわかファンになってしまったのですが、ラグビーというスポーツそのものが本当にいいですね。サッカーの場合だとアウェイとホームで観客が、ファンも分かれています。ラグビーの場合、本当に隣で相手チームのファンがいて、あのプレイいいよねと、チームを応援するというよりもラグビーを応援しているという、あの雰囲気はとてもよかったです。ファンゾーンでパブリックビューイングか何かで外国のお客様が帰っていくときも、ひいきのチームが試合に負けたにもかかわらず「ありがとう」などと言って日本語でみんなにこやかに帰っていったという光景を見ると、ラグビーのファンたちというのは飲んでうるさいですが、とても明るくていい方だなというふうに思いました。しかし、帰りの電車の中でスクラムを組むとか、大声で国家を歌い合うなどで迷惑だった、というようなお話は聞きました。

**○鈴木委員** 会社が東京駅の近くで美術館をやっています。オリンピックの話もこれから出るのではないかと思います。初めてのことで、人がどういうふうに来るのか。予約制も検討していますが、海外の方だったら予約はしないで時間があるから来るということも多いと思います。開館時間を延ばしたほうがいいのかとか、逆に休んでしまったほうがいいのか、何が起きるかわからないという不安があります。

会社でもまだ話は出ていなくて、ただ開けるとだけ言っていて、対策としては想像がつかなくて不安になっているだけで終わっています。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** 閉めるのは得策だとは決して思いませんが、一つの事例を申し上げますと、先ほどの青空パブ状態の状況を見て、ある駅前のコンビニエンスストアは、夜間は閉めました。試合が始まった後から12時ぐらいまで閉めて、一方で会場近くのコンビニエンスストアはずっと開けていました。開けていたけれど途中からかなり揉めてしまって結局閉めた、というような事例はあります。ただ、それは本当にもう会場近くの中で自衛策としての事例です。美術館として海外のお客様が来る機会があって発信をするという意味では、せっかくだったらあけたほうがいいのかとも思いますが、多言語の対応のように不安な部分もあるかもしれません。ただ、今アプリとかもありますので。

**○鈴木委員** そうですね、そういうのも何か国語とか取り入れているようです。

ただ、予約制にすることは無理なので、当日来てオーケーという枠を広げておいたほうがいいのか、とは思いますが。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** 先日、三鷹市にラグビーでお世話になったので挨拶に行きました。その時、三鷹市というとジブリの美術館がありますが、あそこ

は事前予約制を変えないと言っていました。

○竹高委員 でも、ジブリは予約制でないと、狭いので見ている人が見ることができません。先日、京都の美術館に行きましたが、アジア系の方が押し合いへし合いという状態で展示物をろくに見られませんでした。入場規制やマナーを守る展示の仕方、そういうことはきっちりとしないと、見たい人が見ることもできなくて日本の文化に触れられなくて帰る、というのが一番いけないことかなというのを感じました。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 そうですね。

○竹高委員 質問です。ラグビーのときにボランティアを募集していらして、それはまた来年度などに再度募集し、教育とかもされてきっちりという形があるのですか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 ラグビーのボランティアさんには、2020大会のボランティアも可能であるならばやってねと事前にもうお願いさせていただいております。

○大畑委員 ラグビーの時も台風が来たと思います。狭い東京に人があられだけ集まって、その防災対策、避難の確保、言語だけでも大変ですが、避難するスペースをどうやって確保するのでしょうか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 そうですね。多言語をどうやっていくかということはやはり大きな課題で、最近、翻訳できるメガホンなどもあってそういうものを活用しながら、誘導スタッフにも語学ができる方を入れる予定です。避難場所の確保というのは、かなり厳しいという語弊がありますが、まずは施設、この競技会場はもうまさに耐震度が高いので安全です。だから、パニックを起こさないようにすることが重要です。まず、「発災しました、落ちついてください」というアナウンスをする、それを多言語できちんとできるかということが重要です。その後に、交通が多分遮断され帰宅困難になってしまうと思います。ある程度の備蓄はすると担当のほうから聞いておりますのでそこはきちんと確保し、その後は各区市町村で帰宅困難者対策の制度があると思いますが、そこに多分乗っていくと思います。

まずは競技会場の中に入れる方は入る。昨日のシミュレーションで、競技会場に入る前の方をどうするかというところで、江東区の場合は国際展示場の駅の前にシンボルプロムナードという、東京ビッグサイトとの間に大きな広場が一応避難区域になっていて、そこに一回誘導する。暑いので飲み物を配る、日陰を探していく。ビルもありますので、ホテルなどに要請をする。なかなか決まらない、その間に競技会場の状態、安全性がわかる。大変申しわけないですが、また戻ってもらう。有明体操競技場の場合には1万2,000人ぐらい入りますので、誘導するという想定です。

私も、ラグビーワールドカップで使用した東京スタジアム5万人近く入りますが、もし何かあったときに5万人の人たちをどうするのだろうとずっと悩んでいて、東京スタジアムの場合は武蔵野の森公園というのが隣接していて、もし施設に何かあれば、テロなどがあればそこに誘導する。その後、調布や府中、三鷹市のほうに協力要請をしていくと。ただ、元々市もそんなに大きな施設はありませんので、結局スタジアムに戻ってくるようになると思います。そこで1日か2日、様子を見るしかありません。まずは安全確保、怪我をしないように考えています。飲み食いは後からでも

補給が可能なので、雨風をしのぐというのが基本かと思います。

**○大畑委員** こういう建物には非常口とかありますよね。そういった世界共通のものはあるのでしょうか。つまり、絵で見てそちらに避難するとかとかという避難路の案内をつくれるわけですよね。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** 非常口、ピクトグラム、あのよ  
うな形はあると思います。スタジアムの場合だと電子掲示板に、「そこにいてください、動かないで  
ください」と多言語で流して、場内の警備員のスタッフも先ほどのメガホンなどを使いながらアナ  
ウンスしていく。海外の方だと地震の経験がないので多分不安になってしまう。そこでパニックに  
なるのが一番怖い。それを抑えるための方策をあらゆる手段でやっていくということでございます。

ラグビーワールドカップの場合は、オリ・パラ、2020年大会も、チケットを買っていただく際に、  
ID登録をしていただきました。そのID登録にメールアドレスをいただいておりますので、直接  
発信はできます。また本当にSNSが進んでいますのでSNSで発信をする、そういったハード、  
ソフトを使いながら対応していくことになると思います。

**○大畑委員** 次の試合を見るためにホテルにいる人たちにどうやって事を伝えるのでしょうか。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** 本当におっしゃるとおりです。  
そこが大きな課題と思います。

**○大島議長** 本当に簡単に覚えられないほど多くの取り組みをされているのだと思います。東京都、  
そして日本での、というオリンピックであることと、一葛飾区民というか、葛飾の視点で捉えてい  
くときに、こちらからもどう見たらいいのかというのがあります。都から見たときに直接的な当事  
者である会場がある場所と、言い方は適切でないかもしれませんが、周辺の地域である葛飾をど  
う捉えていらっしゃるのかということをお聞きできれば、今後の葛飾でできることを考える参考  
になるので、お教えいただけますでしょうか。

**○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長** よく会場がうちの地域ではない  
からというお話をいただきます。例えば多摩周辺の皆様とかお話を伺います。会場がある地域とい  
うのはそれなりにご迷惑をかけ、ご協力をいただきながら、その分かえって盛り上がっているかも  
しれない、自分たちでもかなりオリ・パラを盛り上げていくぞというような意識があります。東京  
都の場合は、会場運営のためのご協力というか、依頼やタイアップはさせていただいていますが、  
基本的には区市町村みんな同じように考えています。今回ご紹介させていただいた制度も基本的  
には何々区云々というのを想定しているわけではなく、そういう制度を使っただきながら区で何  
をしたいか、何を残したいのかというのを考えていただければと思っています。

この大会に対して何を期待するかというのは多分それぞれによって違うことかなと思っていまし  
て、東京都の場合こういう8つのテーマで進めさせていただきましたが、葛飾区さんは葛飾区さん  
で、例えば生涯スポーツや区民認知度のアップを進めていくのかなと。東京都は、この案のメニ  
ューの中でそれぞれご支援、協力をしていきたいと思います。

私はスポーツ行政の人間だったので、クライミングもできたし、奥戸のスポーツセンターもあつ  
て、聖火リレーとの関連もあるので、ブラインドサッカーでなど、区の独自にスポーツ振興を進め  
ていただけるとありがたいなと思います。また、葛飾区の場合、中小企業さんが多いと思いますが、

その企業の皆さんのスポーツ、東京都がやっているような事例を含めながら普及していただけるととてもありがたいなと思います。

○大島議長 ありがとうございます。

○野川副議長 質問です。ラグビーワールドカップのときの来日者数というのはわかりますか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 来日者数は、まだとってないです。チケットの購入はとれると思います。

○野川副議長 少なくとも30万人ぐらいですかね。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 もっと来ていると思います。

○野川副議長 ただ、ラグビーワールドカップはどちらかというとも富裕層が多いということで滞在日数が長いのですよね。今後のオリンピック・パラリンピックのときの来日者数というのはどのぐらい見込みがあるのでしょうか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 来都でもよろしいでしょうか。

○野川副議長 来都でもかまいません。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 来都で目標にしているのが年間で2,500万。今、1,400万です。

○野川副議長 オリンピック期間中は何万人ですか。2,500万人を12ヶ月で割りますか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 ただ、大会期間中は若干落ち落ちます。ホテル代が高くなってしまいますので。観光という全体の面から言うと若干落ちてその後上がっていく、というお話をお伺いしています。

○野川副議長 たまたまこの間、別のところで宿泊ホテルの値段がどのぐらいになっていて、何ホテルを押さえたのかという話をオフィシャル旅行社さん等に質問しました。ホテルは押さえたけれど、でも今が一番ハイピークだからすごく高い値段になっているそうです。値段は、これからだんだん落ちますよと。それから、Airbnbとかいろいろなところがやってくるともうそこまで把握し切れないと。

でも、やはりアジアのお客さんや若い層が多いと考えると、ファーストクラスのホテルは泊まらないのではないかと我々は思いますが、実は日本のホテルは安いと言うのです。五つ星でも一泊10万円位ではないかと言う人がいるのですよ。日本のホテルは安くて食べ物も安いと。ホテルで食べるディナーは、5万円(約500ドル)だとしても、500ドルならば出せると言うのです。そういう意味では東京は我々が考えるのとは違って、海外の人からは40年ぐらい前のロンドンと一緒に、安心・安全で物価がそれほど高くないと見られているようです。ということは、上手にやると、京23区プラスアルファのところは案外いろいろなことができるのではないかと思います。ただ、旅行者が朝8時にみんなと一緒に電車に乗るということはありません。ですから、出勤のときは混むということはないと思います。したがって、どのぐらいの人数を予想されていて、それをどう振り分けようとしているのか、この葛飾にはどのぐらい来そうなのかというのがもし分かると、計画が立てやすいですよ。

○生涯スポーツ課長 今、電車などの交通計画では葛飾区にはさほど影響がないと予測しています。

○野川副議長 宿泊施設はどうでしょうか。

○生涯スポーツ課長 区内には大きな宿泊施設がほとんどないので逆に通過になってしまう。せっかく成田と東京の中間というか、いいところにあるのですが。

○野川副議長 代々木などもそうですが、実は隠れ民泊がとても多いと思うのです。

○竹高委員 葛飾区もすごく多いです。例えば、マンションを建てるときには、民泊は絶対しませんというルールをつくっているそうです。それよりも前につくられたところは曖昧になっていて、いきなり、え、何でこんな建物からアジア系の人が？しかもたくさん的人数、と。アジア圏の人は、1つの部屋で、10畳ぐらいに7、8人寝ているということもあり得るので、ダブルベッドをたくさん入れてしまっているようです。

この間ニュースで見ていたのは、富士山などにも軽装で、日の出を見るためにトイレで若者たちはそのまま寝てしまう。普通は、その中間でちゃんと宿泊予約をして4時ぐらいに起きて出かける準備をするところ、意外に日本の山そんなに高くないし、と甘い考えの若者がたくさんいるので、そこの部分はオリンピックのときに怖いと思いました。

○野川副議長 いわゆる光と影の部分が必ず出てきます。その光と影もある程度予測しておかないと対応できないですよ。影の部分はずっと影になるのか、しかし、少しだけでも好転させると光になるのかということがあるので、話し合われるといいですよ。

もう1点よろしいでしょうか。シティドレッシングについてですが、ラグビーワールドカップでは導入されたと聞いていますが、同じようなコンセプトを、大会会場はないがスポーツ施設のある葛飾区ではどんなシティドレッシングが可能なのか。東京都のほうから文句は言われなんでしょうか。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 区市町村がやる分には基本的には大丈夫だと思います。ラグビーの場合も、ほぼ全ての商店街にフラッグをかけていただきました。そのままの状況でもう2020のほうに衣替えしていく形になろうかなと思います。なので、年度明けになるかもしれませんが、多分ラグビーと同じようにフラッグが各商店街にはかかっていく形になるかと思います。ただ、商店街の名前は書けません。あくまでも東京都と区市町村の事業としてやっていくような形になります。

○野川副議長 勝手にテープを張ってはいけないのですね。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 はい。産業労働局で準備をしているので大丈夫だと思います。各施設は、東京都がのれん用ののぼりを提供させていただいていると思います。

○野川副議長 あと、総合型スポーツクラブが上手にかぶれるといいと思います。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 はい、そうですね。

○大島議長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。たくさん考える材料をいただいたところかと思いますが。今後の会議の進行についてというところで咀嚼のしていき方をお話ししていきたいなと思いますので、関口さんからのご報告は以上とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局運営推進担当部長 どうもありがとうございました。

## (2) 今後の会議の進行について

○大島議長 では、このまま引き続いてよろしいでしょうか。(2) 今後の会議の進行についてというところにいきたいと思います。

今後のスケジュール案をご覧くださいと思います。次回は年明け、1月17日ですが、内容のところでは「課題の整理」とだけ書いてございます。これまでこの会議で勉強してきたことを踏まえまして、提言を考えていくための、時間をとった意見交換といいますか課題を出し合う時間とさせていただければと思います。特に今回お話を伺って感じるのは、提言をゆっくり出すというのだけではなくて、場合によってはこのオリンピックが始まるタイミングなのかその前なのか、誰にどう呼びかけるかというようなことも含めて考え、スピード感を持って出すということも必要なのかなと感じたところです。皆様から活発なご意見をいただいて提言に向けていきたいと考えておりますので、このお正月休みにどこか皆様の片隅に入れておいていただければと思います。

○竹高委員 次回も2時からよろしいでしょうか。

○事務局 はい、2時からです。

○大島議長 では、ありがとうございます。

## (3) その他

○大島議長 3番、その他ということですが、委員の皆様から何かございますか。事務局からもたくさんチラシ等をいただいていますけれど。

○事務局 少し関連するところでは、「立石にホテル？」という、これは立石地域に住んでいらっしゃるグループの皆さんたちが企画した「わがまち楽習会」という事業です。本当にホテルを建てたいということではありませんが、観光とまちづくりを考えていこうという取組です。その他にもいろいろ事業がありますので、興味が湧くものがございましたらお申し込みいただければと思います。

○竹高委員 その次の黄色いチラシは、私の団体企画でございます。

○大島議長 今度の会のすぐ直後ですね。

○事務局 議長、先日の正副議長の会議でこの後の内容も考えていただきましたが、2月あたりに障害者スポーツについてお話を伺うかどうかということ、実施の方向で考えてよろしいでしょうか。

○野川副議長 よろしければ、私のほうから講師候補者に連絡しておきます。

○事務局 はい。2月に、障害者スポーツを中心として、どなたか外部からお招きしてお話を伺うということでよろしいでしょうか。具体的には野川副議長のお知り合いの、元公益財団法人日本障がい者スポーツ協会にいらっしゃる方に当たりをつけていただくということで。

○野川副議長 はい。

○事務局 障害者のアスリートの方にも来ていただいてお話を伺ったらどうかというご意見も野川先生からもいただきました。具体的には葛飾の職員でボッチャのアスリートがいます。

○生涯スポーツ課事業係長 2008年の北京パラ、ボッチャBCクラスで出た選手、今も現役で東京パラリンピックを目指して活動していたのですが、実は昨年11月にルール改正があったようで、今までやっていたBCクラスから外れてしまってパラリンピックの選考会に出られなくなってしまうということが先月に判明しました。我々も、区としても応援しておりましたが、東京パラには残念ながら出られなくなりました。

○竹高委員 障害者スポーツに詳しい方のお話を聞くのは大切だと思います。しかし、障害者スポーツのことに重点を置いて提言としてまとめていくわけでもなく、しかも30分だけ来てくださというのは申しわけありません。とりあえずその詳しい方に今の葛飾区の事情なりそういう流れを聞かせていただくのが大切かなと思います。

○事務局 わかりました。2月については野川副議長のご紹介の方のみという形で考えたいと思います。

○野川副議長 最初それでやってみて、それでも葛飾の事情に詳しい人が必要だということであればということになったらまた連絡します。

○事務局 よろしくお願いたします。

○大島議長 それでは、本日の議題は以上で終了としたいと思います。どうもお疲れさまでした。

— 閉会 —